

鉱山事業

鉱山事業は周辺環境や地域コミュニティに与える影響がとくに大きいと認識しています。この認識のもと、鉱山事業に係る環境・社会課題を特定し、重点的に取り組みを進めています。

サステナビリティ活動計画と鉱山事業のマネジメント

2020年度に新たに「鉱山事業におけるサステナビリティ活動計画」を策定しました。当社のマテリアリティに基づき、ICMMの基本原則やSASBなどにおいて指摘されている鉱山事業のリスクを各鉱山事業所で洗い出し、取り組み項目として集約しました。鉱山事業のマネジメントでは本計画に示すKPIを達成するために、年度ごとに進捗管理を行なっています。

また、当社の出資比率が50%を超える操業鉱山については、これらの進捗管理に加え、鉱山事業に係る自己評価アンケートを用いた人権・環境に関する調査を毎年実施し、リスクを管理しています。

取り組み項目	目標 (KPI)	計画 (2023年度)
人権 (ペルー)	人権方針に沿った警備体制の構築	コンサルを使った「安全と人権に関する自主原則」に沿った事業リスク評価の実施
地域コミュニティへの貢献 (ペルー)	地域コミュニティへのインパクトの把握	注力すべき項目の決定、インパクト評価の開始
水の管理 (ペルー)	(1) 酸性水抑制のための地表水浸透防止策実施 (2) 水リサイクル率改善計画の策定	(1) - コンサルを使った水文地質調査の実施 - 地表水流入地点の特定 - 坑内清濁分離計画の立案 (2) リサイクル可能な水の評価と利用可能性の検討
鉱さい集積場の管理 (日本・ペルー)	(1) 発生廃棄物の解析に基づき、削減計画を作成・実行 (2) 安定性モニタリングシステムの強化と運用 (3) 事故シミュレーションの完了	(1) 計画に沿った削減活動の実施 (ペルー) (2) モニタリング機器の設置と計測の開始 (ペルー) (3) - 事故シミュレーションの実施 (日本) - 事故シミュレーションのコンサル選定 (ペルー)
温室効果ガス排出 / エネルギー管理 (日本・ペルー)	(1) 赤石鉱山にて2025年までに累計2,000㎡に植林を実施 (2) 神岡鉱山の露天採掘跡地での植林に向けた土壌整備 (3) 再生可能エネルギー発電所の新規建設に向けた調査の完了	(1) 2025年度目標(KPI)達成に向け追加植林箇所を検討 (2) 客土・植栽を継続実施 (3) 太陽光発電所の経済性評価実施 (ペルー)

「鉱山事業におけるサステナビリティ活動計画」より抜粋

鉱山周辺の地域コミュニティとの関わり

ワンサラ鉱山・パルカ鉱山を操業するサンタレイサ鉱業では、鉱山周辺の地域コミュニティとのエンゲージメントを重視し、コミュニティのニーズに沿ったインフラの整備、教育・人材育成の支援、農畜支援を継続的に行なっています。2022年度は近隣自治体に対して農業用トラクタを寄付し、地域コミュニティの農地開拓を支援しています。

苦情処理

ステークホルダーからの要請への対応として、ペルーにおいて地元自治体および住民組織と不定期に会合を持ち、問題の解決に努めています。操業に影響する紛争が起きた場合は、エネルギー鉱山省、大統領府の社会争議担当者など、第三者の立ち合いのもと協議する苦情処理の仕組みを構築しています。

2022年度は地域住民から鉱石運搬トラックの通行に関し苦情を受け、早期解決に向け、苦情処理メカニズムに沿って協議を継続しています。実施中の調査において、操業による影響が判明した場合、必要に応じた是正を行なっています。

水の管理

ワンサラ鉱山・パルカ鉱山は EIA (環境影響評価) に従って、関連法規に準拠した排水の水質管理を行なっています。ワンサラ鉱山では、黄鉄鉱を多く含む地質条件から坑内で酸性水が発生します。生物多様性を含む周辺環境に与える酸性水のリスクを踏まえ、酸性水発生源への対策とともに、発生した酸性水の集約・管理と中和処理を徹底しています。また、ワンサラ鉱山の選鉱場では水リサイクルによる再生水の利用を進めており、水利用量の削減に努めています。なお、ワンサラ鉱山は ISO14001 を取得しています。

鉱さい集積場の管理

鉱さいを管理・保管する鉱さい集積場(テーリングダム)において事故が発生すると、周辺環境やコミュニティへ甚大な影響を与える恐れがあります。集積場からの鉱さいの流出リスクを、鉱山事業における重要な環境課題と位置づけ、所在国の技術指針、マニュアル等に則って集積場の管理を行なっています。海外鉱山における2022年度の鉱さい埋立量は、ワンサラ鉱山で311,413トン※1となっています。

※1 パルカ鉱山で採掘した鉱石はワンサラ鉱山の選鉱場で処理しているため、埋立量にパルカ鉱山由来の鉱さいも含まれます。

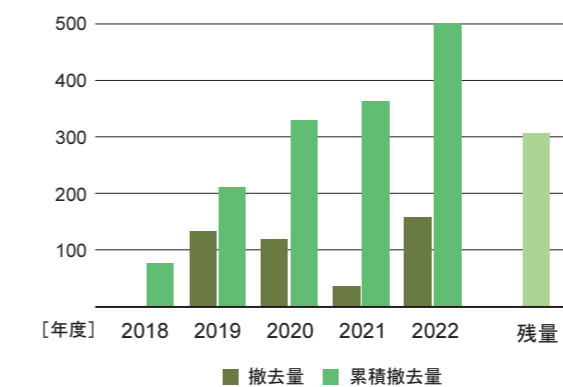
閉山計画

三井金属グループでは、対象となる鉱山において政府に閉山計画を提出し認可を受け、閉山処理費用の保証または積立を実施しています。ワンサラ鉱山とパルカ鉱山では閉山計画に基づき、過去の採掘に伴って地表に積み上げられた廃石(ズリ)の撤去を進めており、さらに撤去箇所において排水側溝の整備や植栽による植生復元を行ない、閉山後に生じる可能性のある環境・社会リスクの最小化に取り組んでいます。

鉱山名	閉山計画の有無	既保証/積立額 (2022年度)
ワンサラ鉱山 (ペルー)	有り	11.0百万USD
パルカ鉱山 (ペルー)	有り	2.6百万USD
赤石鉱山 (鹿児島県)	無し	258.4百万円 ※2

※2 赤石鉱山に関連する事業所に所在する鉱さい集積場の積立額を記載しています。

ワンサラ鉱山・パルカ鉱山における廃石(ズリ)撤去量 (千m³)



休廃止鉱山の管理

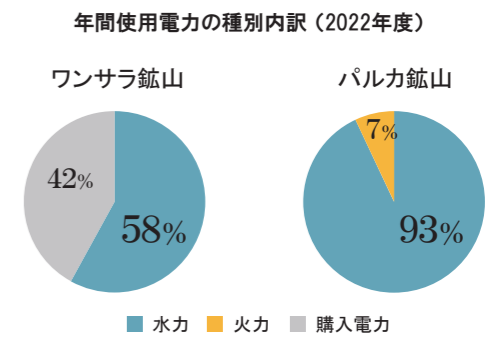
休廃止鉱山では、鉱山保安法および環境関係法令に従い、排水処理や鉱さい集積場の管理を継続して行なっています。集積場および旧坑口の維持管理、重金属を含む酸性の坑廃水の無害化処理、水質モニタリングを実施しています。また、管理状況の確認のため、定期的な巡視・環境監査を実施しています。2022年度、国内の拠点にて一部老朽化した配管の更新および配管管理道路の設置を行ないました。

生物多様性の保全

ワンサラ鉱山・パルカ鉱山の周辺地域には標高3,000m超に生息する高地特有の動植物群が存在しています。開発・操業に伴うこれらの動植物群への影響を最小化するため、酸性水の適切な処理、環境ベースライン調査、年2回の生物生息調査を行なっています。また従業員に対して、入社時および年1回、生物多様性の保全に関する研修を実施しています。

再生可能エネルギーの利用

ワンサラ鉱山・パルカ鉱山はそれぞれ1基の水力発電所を保有しており、発電した電力を操業で使用しています。



廃石を撤去し、植物を移植し、緑が育っています (ワンサラ鉱山)

